

# OpenLM の埋め込み型 Firebird データベースをMariaDB、MySQL または MS SQL サーバーに移行する方法

データベースの移行が必要な理由

バージョン 5.6では、FireBird データベースはサポートされなくなりました。現在、次のデータベースがサポートされています。

1. MariaDB
2. My SQL
3. MS SQL Server

上記のデータベースのテストおよびサポートされているバージョンの詳細については、[OpenLM システム要件](#) を参照してください。

OpenLM の既存のデータベースがFireBirdの場合、バージョン 5.6 へのアップグレード中に、上記のいずれかのデータベースへのデータベースの移行が必要になります。

データベースの移行については、Sales ( sales@openlm.com) に連絡して、外部データベースサポートを含む OpenLMライセンスファイル入手してください。

前提条件:

- OpenLM の既存のデータベースは、移行プロセスの FireBird である必要があります。
- 外部データベースをサポートするOpenLM ライセンスファイル
- 移行ツールをダウンロードする場合は、次のリンクをクリック  
<https://www.openlm.com/DataMigration/DataMigration.zip>
- FireBird Serverがインストールされていない場合、ダウンロードした移行ツールフォルダを解凍し、FireBird Serverをインストールします
- データベース移行プロセスを実行するマシンは、ハードウェアとソフトウェアの最低要件に準拠している必要があります。
- 割り当てられたストレージ領域は、元のデータベースの 3 倍のサイズにする必要があります (移行プロセス自体の間のみ必要)。
- OpenLM データベースに変更を適用する前に、OpenLM Serverサービスを停止し、アクティブなデータベースをバックアップします。
- 次のデータベースのいずれかをインストールします。  
MariaDB

MySQL  
MS SQL Server

- 空のコピー先データベースを作成します。

以下の点にご注意ください。

- データベース移行ツールを実行するユーザーは、移行先データベースに対する管理上の読み取り/書き込み特権を持っている必要があります。
  - MS SQL Server に移行する場合は、[ここでのドキュメントで説明されているように](#)、移行先データベースを圧縮します。
  - 大文字と小文字を区別するようにターゲット データベースを設定する必要があります
  - 同じマシンで OpenLM Reporting Hubも使用している場合は、環境変数 "KETTLE\_HOME" を環境変数から削除してください。
  - MySQLの場合は、次の作成スクリプトを使用します
- ```
CREATE SCHEMA `openlm_database_name` DEFAULT CHARACTER SET utf8mb4;
```
- MySQL データベースの場合: "1175 you are using safe update mode ..." エラーメッセージが表示される場合、次のスクリプトを実行してください:

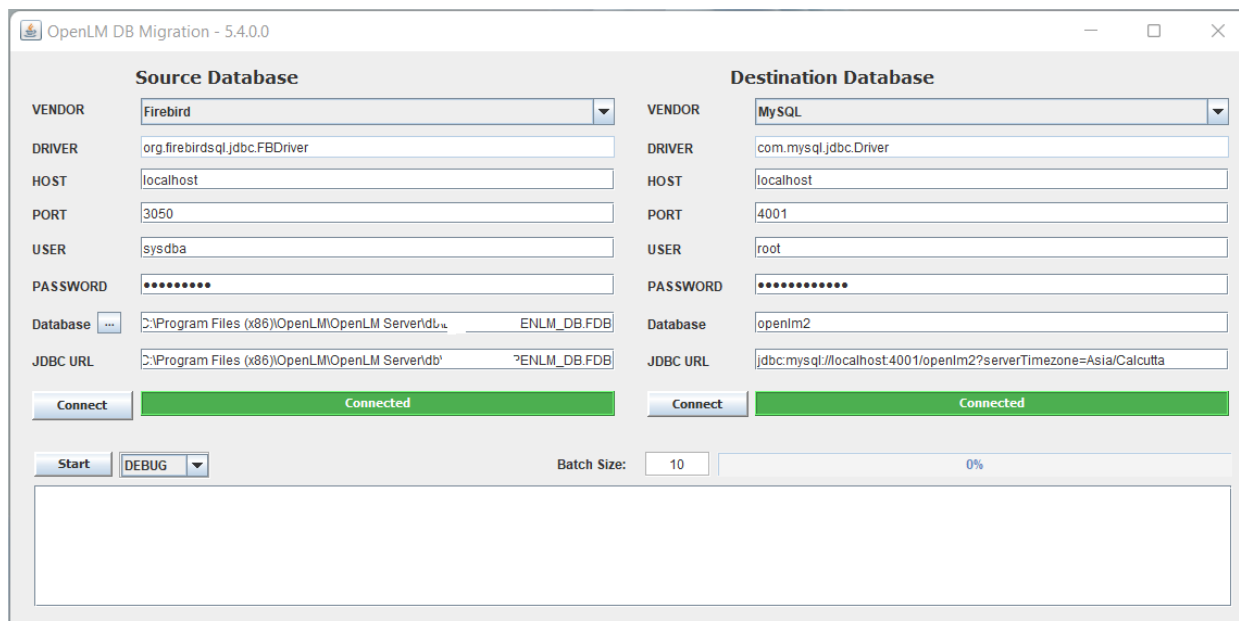
```
SET SQL_SAFE_UPDATES = 0;
```

移行プロセス:

Windows「サービス」ウィンドウで、データベース移行プロセスの間、OpenLM Serverサービスを停止します。

1. 移行ツールの zip ファイル ([データ移行.zip](#)) のコピーを取得し、解凍します。
2. 空のデータベースに対して"OpenLM Server DB Upgrade Tool" を実行します。
3. 「データ移行ツール」フォルダにあるバッチファイル「run-gui.bat」を開きます。
4. 必要に応じてデータベース接続の詳細を入力し、左側にソース データベース、右側に移動先データベースを入力します。
5. [スタート] ボタンをクリックし、下のスクロールログを表示して移行の進行状況を確認します。

以下の画像を参照してください。



移行プロセスへのリンクビデオ: <https://youtu.be/rE07DyF7KHM>